

永田 夏来

兵庫教育大学の永田です。今回は大変面白いご報告で、本当にありがとうございました。始めに企画を聞いた時には成立するのかな、こんなマニアック、というかニッチなテーマでと思ったのですが、凄く多様でしたね。お話が。私としても興味深い論点がたくさんあって、とても勉強になりました。私の率直な感想としては、凄いリアリティがあるなというのが感想です。それは私自身、最近高度生殖医療に自分が携わっているというのがあると思いますが、技術が発達していくなかでですね、やはり技術に対してどう向き合っていくのか、自分の中でどう落としこんでいくのかということって、新しい言説の水平みたいなのがやはり作られていくと思います。そういう過程のなかでですね、いろいろなお話が出てきていて、男性の不妊ということに、どういう言葉を与えていくのかという過程が、それぞれの立場で記述されているというような状況なのかと思います。

私は、できちゃった結婚とか、あとセックスレスなんかの夫婦のインタビュー調査というのをやっています。その人たちが自分たちの問題というのをどう説明して、理解し、提示するのかというのをですね、構築主義的な立場から調査分析しているというのが私の基本的な立場です。それから比べると、やはり男性不妊の話はまだ定型化していないと思います。例えばできちゃった結婚の話聞きに行くと、「いや私は普通なんです、普通に結婚したんです」と、だいたい皆言います。じゃあ普通って何って話になりますよね。あるいはセックスレスの人たちに話を聞きに行くと、「セックスはしてないけど夫のことは好きなんです」とか言ったりするわけですが、そういう話の仕方が男性不妊ではできてなくて、それがこれからどういうふうにできあがっていくのかなというところから追っていけるというのが、この研究の面白さなのかなと思います。

それを考えてみた場合に、皆さんに素朴な疑問として二点お伺いしたいなと思っております。一点目は、一様に男性不妊の話が活気を帯びていますとおっしゃっていましたが、なぜ活気を帯びているんでしょうね、というところがや

はり気になりますよね。

それは私が一つ思ったのは医療技術、不妊治療の技術が発達していった、ある種コモディティ化しているところがあって。検査キットが簡単に手に入ったとか。そういうテクノロジーの発達みたいなものが影響して、というのがもしかしたらあるのかもしれない。それをどう思いますか、ということですね。不妊治療というのがある程度一般化していったことによって、女性が不妊治療を受けるという過程のなかで、今度は男の人をうまく抱きこんでいきたいみたいなことがたぶん起きています。そういうちょっとこう一周して、再帰性とまでは言わないですけど、ある種の不妊治療の話みたいなのがひと段落して山越えたみたいな、そういう不妊言説トレンドみたいなものとの位置づけもちょっと気になるかなと思いますので、それぞれのご研究の中から何か思うところがあったら教えていただきたい。なぜ帯びているのかということの私の仮説は、男性ジェンダーが変わってきた。男らしさというものがちょっと従来から変わってきていて、イクメンとか、あるいはお料理ができたとか、そういういわゆる男らしいというね、マッチョであるということ以外にも、男性性というものがおそらく成立していると思います。そういう状況があるのかなというのを、私はお話を聞きながらなんとなく思いましたけれども、おそらくそれに対して論点があると思いますし。なぜ活気を帯びてきているのか、ということについてちょっとお伺いしたいというのが、まず皆さんにお聞きしたい論点その一です。

もう一つは、それをどう言うのかということですよ。現状の記述のご報告が多かった、もちろん分析的なところにふみこんで、お話をされている発表もございましたけれども。基本的には記述からスタートしている、というところがあるのかな、と思うのですが、じゃあそれを今後どう社会学なり、それぞれのご専門に引き付けて発展させていくのかなという、今後の可能性みたいなものについても教えていただけると嬉しいかなと思います。皆さん方にぜひコメントいただければいいかなと思います。

個別にお話をすると、竹家さんのご報告、私2回目ですけども、何回聞いても面白いですよ。ただご自身もおっしゃっていましたが、インタビューの状況というのがある程度規定されているなかで、あとインタビューの

シチュエーションもわりと特殊な状況で聞いている、という制限の中であってもやはり、まあそれがだからこそなのかな、というかわからないですけども、妻のために頑張るという話が出てきて。これ家族の話にちょっとなっているところがあるのかなと思います。そうやって考えてみた場合に、先ほどのお話にも繋がるのですが、男性不妊の話をしているけど、実は家族とか、夫婦関係みたいなもの話でもあるのかなという気もします。これまでの報告は、たぶん前回聞いた時も、ジェンダー、男性ジェンダーの語られ方の違いみたいなところにちゃんと含有されていたと思いますが、夫婦ってこういうものなのか、つまり申し訳ないとか、そういう夫婦関係に対する評価みたいなところというのが、ある種の問題を付加することによって出てくるみたいな状況もありうるのかなと思ったりしました。コメントですけども。そういう方向性みたいなところ、家族の話としてこれを考えるということについて何かあったら、聞かせていただくと嬉しいかなと思っております。ありがとうございます。

倉橋さんはめちゃくちゃ面白かったですよね。生殖能力と性的能力の切断のところが非常に興味深いなと思いました。やはり商業言説に注目しておられるというところから考えてみた場合に、特にダイヤモンド☆ユカイさんとか、言っちゃえば凄いやつから勝ち組とか、ザ・マスキュリティみたいなところがあるわけじゃないですか。お金も持ってるし、ダイナミックな人柄もあるので、そういう格好悪いところもちょっと出せちゃうところがかえって男らしいんだよ、みたいな男性性みたいなを感じるんですよね。ですので、弱さみたいなところというのを強さの説明として使うみたいなコンテキストをちょっと感じて。それっておそらく生殖技術に限らず、他のところでもあるのかなとも思います。そういうマスキュリティみたいなものの提示みたいなことに関して、他の事象とたぶん接合できるんじゃないかなという気がするのですが、何かアイデアみたいなものがあつたらぜひ聞きたいなと思いました。

あと由井さんですね。由井さんのご報告は、1950年代の話とゼロ年代の話が意外に似てたりとかして面白いなと思います。かと思いきや、技術の発達とか、性病、不妊に対する知識の刷新されていくことによって一部の語りが変わっていくということも、大変興味深いとは思いますが、やはりその時代の変化みたいなものをどうアップするのかということも、ご専門に引き付けてもう

少し解説していただけると嬉しいかなと思います。ちょっと時間が足りなかったというのがあるのかなとも思って。典型的な語りを5パターンぐらい出して、それぞれの解説を聞けましたし、報告の中で60年代まではこういう話だったけど、70年代からこうだみたいな、個別の話はあったと思いますが、全体の流れみたいなものってどう見るんだというところを、もうちょっと追加で。もしも見取り図みたいなものがあったら、教えていただけると嬉しいかなと思いました。

澁谷さんのご報告は私もご本人に直接話を聞けて、凄く楽しかったです。自ら進んで良き生産者になろうとしているところ、大変興味深いですね。これってでもたぶん不妊治療に関していうならば、女性もなんか「頑張っている卵つくります」みたいな言い方をよくしていて、漢方薬飲んだりとか、お灸やったりだとかなんだとかって、そういうことやっていると思います。それって二つあって、一つは、医療化に向き合わないといけないので、戦略的にそういう言い方しているところがある。私が面白いなと思ったのは、精子のことをソルジャーと呼んでいる不妊治療の当事者がいてですね。「ソルジャーの元気がなかったから今回はいまいちだった」みたいなことを言ったりしていて。それって医療化に対するある種の抵抗言説だと思います。そういうふうな、要は自分の人としてのあり方というのを守るために、あえてモノ化にコミットするみたいなところもあるのではないかな。そういう文脈をちょっと思ったりしましたけれども、それってご報告のなかでもあった、軍隊にあえて適応していく過程みたいなのとちょっと似ているな、とも思うのですが、もしご意見があったら聞かせていただけると嬉しいです。もう一つは良き精子生産者になろうとしているというのは、これは感想ですけど、男らしさを確認したいというか、俺の精子めっちゃ元気で、俺男らしいぜ、みたいな、そういうところももしかしたらあるのかなと思ったりします。TENGAとかそういうのも、健康管理、自己管理の一環だ、みたいな売り方をしている文脈ってあると思いますけれども、そういうお話との接合も考えたりしました。その、生産者になろうとしているところについて、もうちょっと膨らむかなという感想をもちました。もしも何かリアクションなりコメントなり、思い出したことなんかがあったら、教えていただけると嬉しいかなと思います。

瀧川さんですけれども、ご自分の今までのカウンセリングの経験のなかで、時代的な変化みたいなものについて思ったりするところはないかな、というのをできたら教えていただきたいなと思います。不妊治療はだいぶ歴史が長くなってきましたので、その中で心配事のトレンドが変わっていったりだとか、そういうことが起きてきているのではないかなと、私としては思っています。もしも臨床のご経験の中でそういったところで気づいたところがあれば、教えていただければ嬉しいかなと思います。雑駁になりましたけれども、だいたい時間ですので、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。